

出張報告届

令和7年 4 月 24 日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田・無所属の会

代表者氏名 白石 透

出張者氏名 .....白石 透.....

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	電設年金会館（東京都新宿区）
期間	令和7年 4月 21日から 4月 22日まで 2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	第25期自治政策講座in東京 社会の変容と目前の課題 2025年 一自治体の役割を考える



第 25 期自治政策講座 in 東京 報告書

社会の変容と目前の課題 ー自治体の役割を考える

日程：2025 年 4 月 21 日（月）・22 日（火）

場所：電設年金会館 大会議室

講師：阿部 彩 東京都立大学人文社会学部教授

尾身 茂 公益財団法人 結核予防会理事長

井上 由起子 日本社会事業大学専門職大学院教授

山田 健太 専修大学ジャーナリズム学科教授

第 1 講義は「日本の貧困の現状と政策」で数々のデータにより問題点の指摘が提示され、特に子どもの貧困率を問題視されていたように受け止めた。貧困の子どもの過半数は「ふたり親世帯」であると私の感覚と違っていたことに驚いた。私はひとり親世帯が当然貧困率が高いと認識していたが、データでは違っていた。

データでは親の 1 人が「正規雇用」である場合、貧困率は比較的低いが「非正規雇用・自営と正規雇用以外」の場合は突出して高いことがわかった。想定外のデータではあるがグラフを見ると納得できた。

また、母子世帯のデータでは親の就労状況により、大きな差があることがわかる。当然正規雇用と非正規雇用での違いが大きい。

多くのデータを確認させてもらったが、課題は子どもの貧困をどうやって見つけるか?に限るとの結論で締めくくられた。

自治体として、どのようにして見つけていくか?

講師の話によると、今後、子ども食堂から高齢者食堂まで本当に困った時の支援こそ重要であり、また貧困者をどう見つけるかが課題であり、自治体のホームページ、市報などは殆どみない。が、学校からの便りなどは見ていることから、学校の先生、地域の方が例えばおむつなどの手土産を持っていくなどの事業が、効果が大きいと結論付けられた。吹田市においてもあらゆる手段を用いて取りこぼすことなく施策をうっていくべきと感じた。

尾身先生の講演では先のコロナ禍の事情などが語られ、日本の医療の質は WHO 評価でも国際的にもトップクラスであり、今回のパンデミックでも人口10万人あたりの死亡者数も諸外国に比べ比較的強く抑えられてきた。医療関係者の一部は協力に後ろ向きであったが、多くの医療関係者は様々な制約にもかかわらず、コロナ病床を増やしてきた。それなのになぜ医療ひっ迫が起きたのか?

であるが、我が国の医療において多くの病院が高齢者介護や生活支援に力点が置かれパンデミックを想定した制度ではないこと、病床数当たりの医師数、看護師数が諸外国に比べ少なく、感染症のような全身疾患を診られる医師が少ない、また医療情報のデジタル化の遅れなどから保健所・医療機関への負担が増大したことなどが挙げられる。

日本の医療制度において、小さな病院が患者の奪い合いになっており6割7割の病院が赤字であり、医療を集約化することが望ましいとの見解を示された。自治体として今後どのように関わられるのか考えていきたい。

今回の講座を終え、急ピッチで変容していく社会の流れに対応しながら、一方で今ある多くの問題を解消していくことの重要性に気づかされた。今できることから少しずつ問題解決に向け、より市民満足度の向上に努めていきたい。